

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520304

研究課題名(和文) コンピュータを使った『カンタベリー物語』Hg、EI写本及び刊本の言語比較

研究課題名(英文) A computer-assisted comparison of the languages of the Hengwrt and Ellesmere MSs of the Canterbury Tales

研究代表者

中尾 佳行(Nakao, Yoshiyuki)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：10136153

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円、(間接経費) 1,050,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、チョーサーの『カンタベリー物語』の2つの写本(Hengwrt MS=Hg, Ellesmere MS=EI)とそれに対応する2つの刊本(Blake 1980, Benson 1987)、4つのテキストの平行コンコーダンスを作成し、チョーサーの本文批評及び言語解析に貢献することである。既に作成済みの韻文テキストに加え散文テキストの写本平行コンコーダンスを作成した。散文においても、写本の異同が観察された。否定表現に関し、2012年7月、ポートランドで開催された新チョーサー学会で発表した。本研究は写本・刊本の電子化に基づき、チョーサーの言語の新しい研究手法を提案している。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research is to make a parallel concordance between the two representative Manuscripts and the two representative editions of the Canterbury Tales, and contribute to the text criticism and analyses of Chaucer's work. The two manuscripts are Hengwrt MS (Hg) and Ellesmere MS (EI) and the two editions are Blake (1980) based faithfully on Hg and Benson (1987) mainly based on EI. The four texts parallel concordance has not been made. In addition to the verse lines parallel concordance, the prose lines counterpart has been made. The scribe of the two manuscripts was regarded as the same (Adam Pinkhurst), however, it was found that he made many editorial revisions between them even about the prose. We investigated the variations of the negative forms not only of the verse lines but the prose, and made a presentation of our discoveries at the New Chaucer Society at Portland in July, 2012. Since our parallel concordance is digitalized, it is expected to create diverse research.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：The Canterbury Tales Hengwrt MS Ellesmere MS Blake版 Benson版 テキスト批評 Chaucerの言語 デジタルコンコーダンス

### 1. 研究開始当初の背景

G.チョーサーのテキスト研究は、近年のコンピュータの発達により写本の電子化が押し進められ、編集された刊本からオリジナルに近い写本に焦点が当てられてきている。今日でも研究・教育において刊本が使われている現状に鑑みると、写本と刊本とはどこが類似し、どこが相違しているのかを、体系的に捉え、それぞれのテキストの編集方針を明確にすることは意義のあることである。チョーサーの代表的な作品である『カンタベリー物語』(*The Canterbury Tales*)を取り上げ、チョーサーのオリジナルに最も近いとされる写本、Hengwrt 写本(Hg)とそれを起点に編集しより完全なものへと仕上げた Ellesmere 写本(EI)、そしてそれぞれの写本が対応する現代の刊本 Blake (1980)と Benson (1987)、計4テキストを比較することは緊急課題であると考えた。4テキストのコレクション・コンコードを作成し、語彙、統語、談話、韻律、方言等をコーパス言語学の手法を取り入れながら、統計的に明らかにすることはチョーサーの本文批評に大きく貢献するものと期待される。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、G. チョーサーの『カンタベリー物語』の2つの代表的な写本とそれに対応する2つの代表的な刊本を取り上げ、4つのテキストの平行コンコードを作成し、チョーサーの本文批評に貢献することである。2つの写本は、当該作品80余写本のうち最も注目されている、HgとEI、2つの刊本は、Hgに依拠したN. Blake, ed. (1980) *The Canterbury Tales*, Edward ArnoldとEIに依拠したL. D. Benson, ed. (1987) *The Riverside Chaucer*, OUPを取り上げた。4テキストの編集方針を明らかにし、言語特徴の類似点と相違点を解明することを目指した。本研究ではこれまでの写本の韻文テキストに対し散文テキストの処理を行い、韻文・散文と合わせ、総合的に言語処理できることを可能にした。

### 3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するために、下記の手順で研究を進めた。

- (1) Hgは、『カンタベリー物語』において、最も古いとされる写本で、オリジナルに最も近いと考えられている。2004年にLinne Mooney氏により当該写字生は、Adam Pinkhurstであると特定された。EIは約10年後、パレオグラフィカルなデータから、同じ写字生(Adam Pinkhurst)によって作成されたものと考えられている。EIは様々なレベルで改編され、最も完成度が高く、従来多くの刊本のベースにされてきた。Blake (1980)はHgに忠実に従ってはいるが、スペリング等では編集が施されている。Benson (1987)

は、原則EIに基づいているものの、時にHgを含め他の写本を取り入れて編集している。4つのテキストの平行コンコードは、その重要度にも拘わらず今尚未完である。本研究では、写本と刊本の異同をコンピュータ処理し、写字生及び刊本の編者の編集方法の類似点と相違点を明確にし、かくして学会に対して有益な資料を提供できると考える。

- (2) 平成23年度は『カンタベリー物語』Hg、EIの散文の処理に関して、特殊文字の対応処理を行い、平成24年度は、散文につき2テキストの平行コンコードを作成した。平成24年度は、散文データを含め、特に否定表現について、写本と刊本のテキスト比較を7月にポートランドで開催された新チョーサー学会で発表した。平成25年度は、散文テキストの精緻化を行うと共に、他の言語特徴の計量的・統計的解析をし、それぞれのテキストの特性と関係性を明らかにした。この研究成果の一部は、平成26年7月にアイスランド、Reykjavikで開催される新チョーサー学会で発表することが決まっている。

- (3) 本研究は、チョーサー及び中英語テキストに関して、写本まで含めた電子コーパス化という国際的研究動向に対応している。Hg、EIのCD版テキストが、*The Canterbury Tales Project* (Estelle Stubbsの編集)より2000年に出た。このCD版は写本の平行コンコード作成に使用した。

コンピュータ及びプリンター機器は、高速に多量なデータを処理できる最新のものを用意した。データ処理は、研究分担者川野幸徳氏及び統計学が専門の佐藤健一氏(広島大学)協力によって実行した。

写本・刊本を含めた平行コンコード作成については、Terry Hoad教授(Oxford大学)、Estelle Stubbs博士(Sheffield大学)、Peter Robinson教授(Saskatchewan大学)の助言を得ながら進めた。

2写本及び2刊本のデータの解析は中尾と地村彰之氏が行った。言語資料及びその解釈を随時公刊して世界の研究者の利用に資する予定である。

### 4. 研究成果

コンピュータを利用し、『カンタベリー物語』のHgとEIに関して、散文作品を含めた全ての作品のコレクション・コンコードを作成した。また2つの刊本についてその電子化を完成させた。平成24年7月にポートランドで開催された第18回新チョーサー学会で、平成23年度～24年度の研究成果の一部(否定表現の写本及び

刊本の比較)を公表した。Peter Robinson教授から特にHg写本に関して貴重な助言を得た。平成24年12月に開催された、日本中世英語英文学会全国大会(広島大学)では、単音節形容詞のfinal -eのHgとElの編集態度の違いを公表した。これはNakao(2014)で発行が決定している。イタリア、シエナで開催された第17回新チョーサー学会で発表した原稿は論文化し、中尾・地村(2014)で発行が決定している。また平成26年7月にアイスランドで開催される第19回新チョーサー学会で、平成25年度の研究成果の一部(写本と刊本の距離および言語項目の統計的分類)を公表することが決まっている。散文作品であるMelibeeとParson's Taleについて、2写本の電子化の作業を終え、韻文作品と比較対応することが可能になった。刊本とも対応させ、4テキスト間のより精緻な研究体制が整ったことは大きい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

1. 中尾佳行・地村彰之「第3章『カンタベリー物語』の写本と刊本における言語と文体について」『英語コーパスと文体』(ひつじ書房). 2014年に発行が決定。(査読有り)
2. Nakao, Yoshiyuki. "Linguistic Differences Between the Hengwrt and Ellesmere Manuscripts of *The Canterbury Tales*: The Multifunctions of the Adjectival Final -e and the Scribe's Treatments." *STUDIES IN MODERN ENGLISH: The Thirtieth Anniversary Publication of the Modern English Association*, 69-84. 2014年に発行が決定。(査読有り)
3. HIRABAYASHI, Kyoko, Noriyuki KAWANO, Talgat MULDA GALIYEV, Kazbek APSALIKOV. "The psychological effects and their factors among inhabitants around the Semipalatinsk Nuclear Test Site: Results of questionnaires and interview surveys from 2002 until 2012." *Japanese Review of Political Society*, Vol. 2. 2014年に発行が決定。(査読有り)
4. Nakao, Yoshiyuki. "Progressive Diminution in 'Sir Thopas'." *Chaucer's Language: Cognitive Perspectives (Studies in the History of the English language, 2013-B)*, edited by Y. Nakao and Y. Iyeiri, Osaka: Osaka Books Ltd, 2013, 47-77. (査読有り)
5. Jimura, Akiyuki. "Chaucer's Imaginative and Metaphorical Description of Nature." *Chaucer's Language: Cognitive Perspectives (Studies in the History of the English language, 2013-B)*, edited by Y. Nakao and Y. Iyeiri, Osaka: Osaka Books Ltd, 2013, 27-45. (査読有り)
6. Nakao, Yoshiyuki. "Truth and Space in Chaucer: A Cognitive Linguistic Approach." *Studies in Modern English*. No. 28, Modern English Association (Kindai Eigo Kyokai), 2012, 23-49. (査読有り)
7. Iwanakai, Tetsuji, Satoru ENDO, Noriyuki KAWANO, Kenichi TANAKA. "Radiation exposure and disease questionnaires of early entrants after the Hiroshima Bombing." *Radiation Protection Dosimetry*, Vol. 149, No.1, 2012, 91-96. (査読有り)
8. 中尾佳行. 「トパス卿の話」における音と意味 ロマンズの解体と再構築」日本英文学会第83回大会 Proceeding. The 83<sup>rd</sup> General Meeting of the English Literary Society of Japan 21-22 May 2011 (付 2010年度支部大会 Proceedings) 日本英文学会 2011年, pp. 111-113.
9. Nakao, Yoshiyuki. "Chaucer's Language: 'Subjectivisation' and 'Expanding Semantics'." *SIMELL (Studies in Medieval English Language and Literature)* No. 25, The Japan Society for Medieval English Studies, 2011, 1-41. (査読有り)
10. Nakao, Yoshiyuki. "Textual Variations in *Troilus and Criseyde* and the Rise of Ambiguity." Tomonori Matsushita, A.V.C. Schmidt and David Wallace, eds. *From Beowulf to Caxton: Studies in Medieval Languages and Literature, Texts and Manuscripts*. Bern: Peter Lang, 2011, 111-50. (査読有り)
11. Nakao, Yoshiyuki and Masatsugu Matsuo. "A Comprehensive Textual Comparison of *Troilus and Criseyde*: Corpus Christi College, Cambridge, MS 61 and B.A. Windeatt's Edition of *Troilus and Criseyde* (1990)." Tomonori Matsushita, A.V.C. Schmidt and David Wallace, eds. *From Beowulf to Caxton: Studies in Medieval Languages and Literature, Texts and Manuscripts*. Bern: Peter Lang, 2011, 151-64. (査読有り)
12. Jimura, Akiyuki. "On the Decline of the Prefix y- of Past Participles." Tomonori Matsushita, A.V.C. Schmidt and David Wallace, eds. *From Beowulf to Caxton: Studies in Medieval Languages and Literature, Texts and Manuscripts*. Bern: Peter Lang, 2011, 215-28. (査読有り)

〔学会発表〕(計 3 件)

1. 中尾佳行. 「*Chaucer's Troilus and Criseyde* における“assege”  
—<器>(内、境界、外)の認知プロセスを探る—」日本英文学会中国四国支部  
第66回大会. 2013年10月19日、  
山口大学.
2. Nakao, Yoshiyuki. “Linguistic  
differences between the Hengwrt and  
Ellesmere Manuscripts of the Canterbury  
Tales and Multifunctions of the  
adjectival final <-e>”  
日本中世英語英文学会第28回大会、シン  
ポジウム “The mysteries of  
manuscripts and early editions” .  
2012年12月1日、広島大学.
3. Nakao, Yoshiyuki and Akiyuki Jimura.  
“Negation and Psychology in Chaucer’s  
Language”. The 18<sup>th</sup> Congress of the New  
Chaucer Society at Portland, USA, on 19  
July, 2012.

〔図書〕(計3件)

1. Nakao, Yoshiyuki and Yoko Iyeiri, eds.  
*Chaucer’s Language: Cognitive  
Perspectives*. Studies in the History of  
the English Language, 2013-B.  
The Japanese Association for Studies in  
the History of the English Language.  
Osaka Books Ltd., 2013, 151 pp.
2. Nakao, Yoshiyuki. *The Structure of  
Chaucer’s Ambiguity*. Frankfurt am  
Main: Peter Lang, 2012, 309 pp.
3. 地村彰之 『*Chaucerの英語の世界*』 溪  
水社, 2011, 243 pp.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中尾 佳行 (NAKAO YOSHIYUKI)  
広島大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号：10136153

(2) 研究分担者

地村 彰之 (JIMURA AKIYUKI)  
広島大学・大学院研究科・教授  
研究者番号：00131409

川野 徳幸 (KAWANO NORIYUKI)  
広島大学・平和科学研究センター・教授  
研究者番号：30304463

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：